

今号の作業

ベースフレームに スピーカーを取り付ける



今号では、60号で組み立てたベースフレームに「スピーカー」を取り付ける。実車からサンプリングしたエンジン音を再現するため、本格的な大口径スピーカーを採用。ディスプレイベース自体がスピーカーボックスとなり、圧倒的な重低音の迫力を体感できる。

今号のパーツ



- ①スピーカー×1
- ②樹脂製ポスト×4
- ③4×48mmビス×4

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

使用する道具

・+ (プラス)ドライバー (2番)

用意するもの

・ベースフレーム (60号で組み立てたもの)



③4×48mmビスを写真で示した①スピーカーの外周部のビス穴に差し込む。ビスのアタマ部分が外周の縁に引っ掛からないよう、また穴から抜けないように真っ直ぐに通して、ビスの位置を調整しておく。



①で差し込んだビスのあたまを指先でしっかりと押さえてスピーカーを裏返し、突出したビスに②樹脂製ポストをセットする。



樹脂製ポストを奥まで差し込む。このとき、4×48mmビスが傾かないよう、アタマ部分をしっかりと押さえておく。



60号で組み立てたベースフレームを用意し、写真で示したビス穴へ③の状態にした4×48mmビス先端をセットする。樹脂製ポストが抜け落ちないように、しっかりと押さえて作業しよう。



4×48mmビスのアタマを軽く押さえ、ビス先端をビス穴に差し入れる。このとき、スピーカーの底面がベースフレームに触れた状態になっても問題はない。



2番の+(プラス)ドライバーを使い、4×48mmビスを軽くねじ込む。ビスが抜けかない程度でOKだ。



真上から見たときに、⑥でねじ込んだスピーカー外周部のビス穴と対角となるビス穴を、ベースフレームのビス穴と重なるように位置を調整する。次に、その上下のビス穴の間に樹脂製ポストをセットする。



スピーカー外周部のビス穴と、樹脂製ポストの穴、さらにはベースフレームのビス穴の位置をしっかりと重ね合わせる。



⑧のビス穴に4×48mmビスを差し込む。

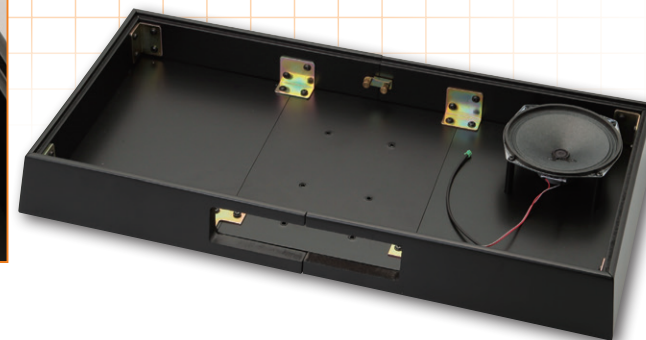


2番の+(プラス)ドライバーを使い、4×48mmビスを軽くねじ込む。ビスが抜けかない程度でOKだ。



残り2カ所のビス穴にも、同じ要領で樹脂製ポストと4×48mmビスをセットし、ドライバーで軽くねじ込む。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。スピーカーは“仮組み状態”での取り付けとなっているが、これは後に提供されるアクリルプレートとの位置合わせ時に固定するので、現時点で多少グラグラしていても問題はない。組み立てたベースフレームは、次回の作業に備えて大切に保管しておこう。